栗駒山の火山活動解説資料（平成 20 年７月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（表１、図２～３）

栗駒山を震源とする地震活動は低調な状態が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

なお、６月 14 日に岩手県内陸南部で地震（M7.2）「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」が発生し、栗駒山の近傍でも余震活動が続いています。

・熱活動（表２～３、図４～６）

16～17 日に現地調査を実施しました。ゼッタ沢上流などの噴気の状況は低調な状態で、地表面温度分布[1)]、及び噴気温度[2)]などは前回（2007 年７月）と比べて大きな変化はなく、低調な状態でした。

なお、ゆげ山山頂では以前から弱い噴気が上がっていましたが、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」により地割れが広がり噴出箇所の増加がみられるため、今回、噴気温度[2)]の測定を行いましたが、異常はみられませんでした。

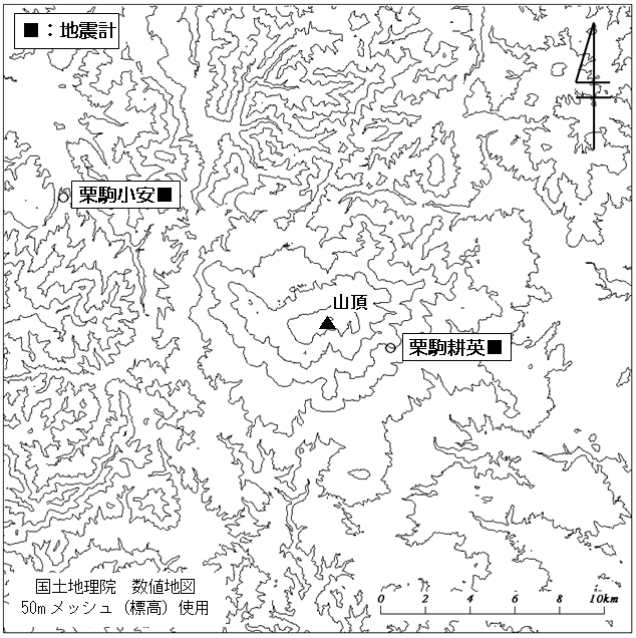

図１　栗駒山観測点配置図

1）赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2）サーミスタ温度計による直接測定。サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器です。

――

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（http://www.sendai-jma.go.jp/）や、気象庁ホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 20 年８月分）は平成 20 年９月 10 日に発表する予定です。

※資料は、気象庁のデータの他、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

表１　栗駒山　火山性地震・微動の月別回数

	2006年			2007年												2008年						
	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月
地震回数	5	2	0	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	22	1※	6※
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※2008 年６月の火山性地震・微動回数は、平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震に伴い、栗駒山の火山監視用の「栗駒耕英（こうえい）」が観測不能となったため６月 13 日までの回数です。
なお、７月２日 18 時から山頂の北西約 10㎞ に地震計「栗駒小安（おやす）」を設置し監視を行っています（図１）。

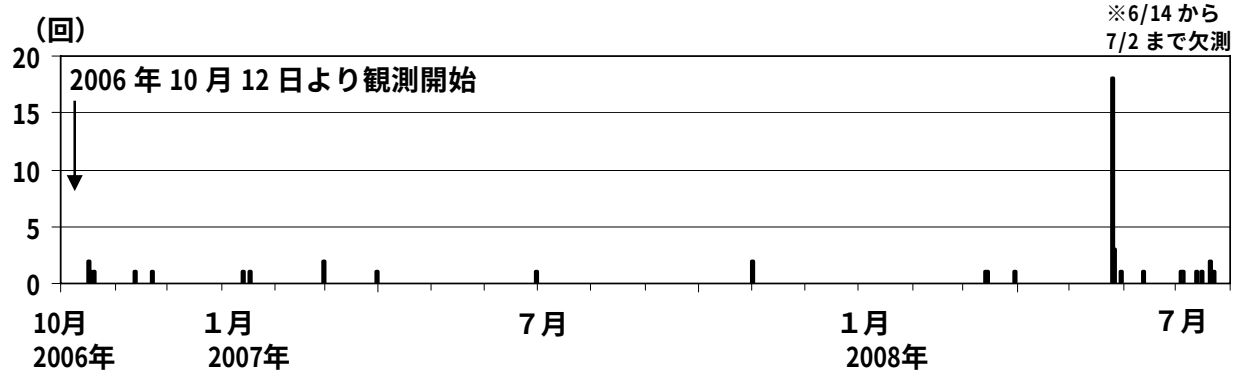

図２　栗駒山　日別地震回数（2006 年 10 月～2008 年７月）

2006 年 10 月 12 日から観測開始。
※2008 年６月 14 日から７月２日まで、平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震に伴い、栗駒山の火山監視用の「栗駒耕英（こうえい）」が観測不能でしたが、７月２日 18 時から山頂の北西約 10㎞ に地震計「栗駒小安（おやす）」を設置し監視を行っています（図１）。

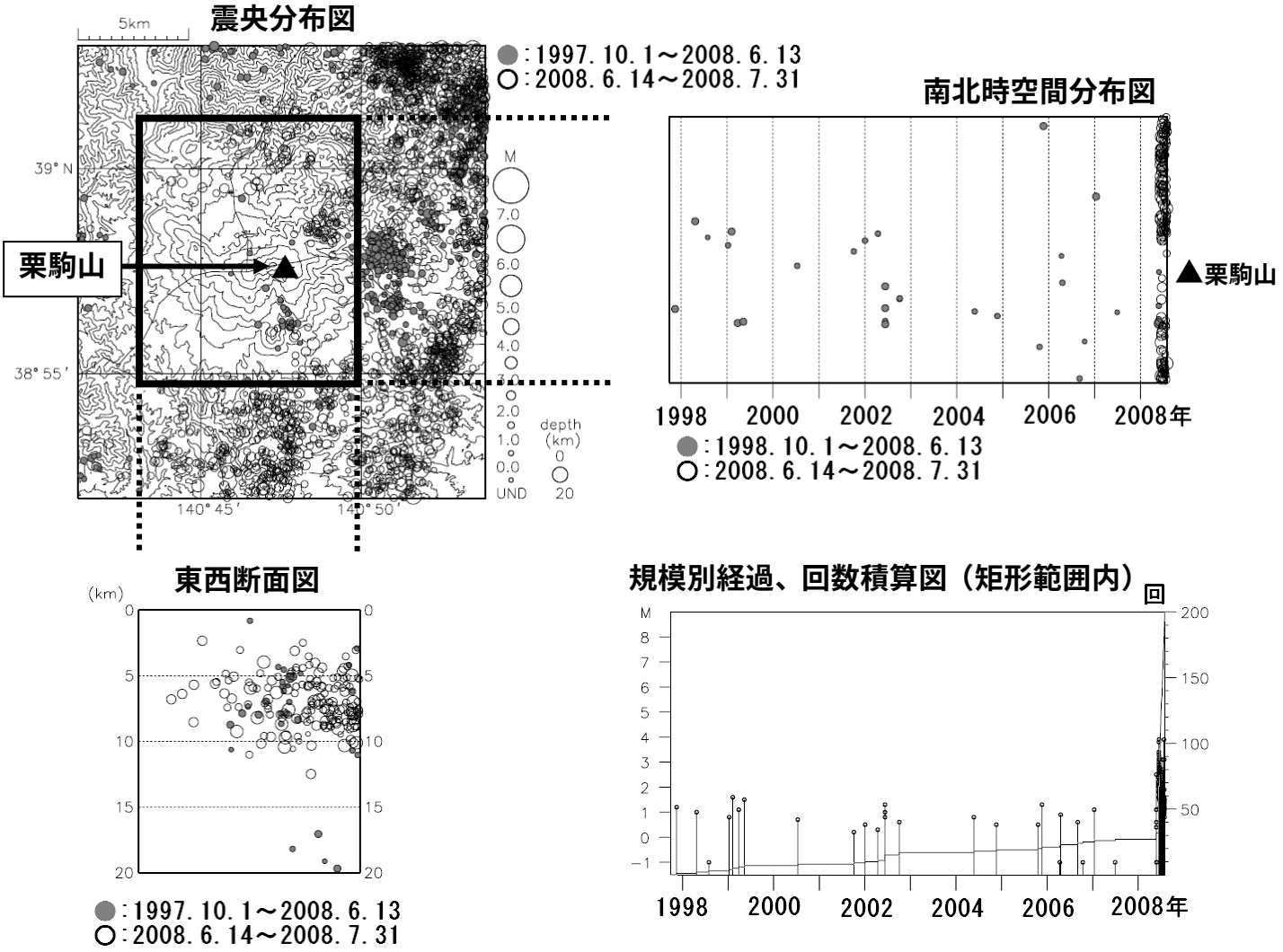

図３※　栗駒山周辺の地震活動（1997 年 10 月～2008 年７月）

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。M（マグニチュード）は地震の規模を示します。
図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

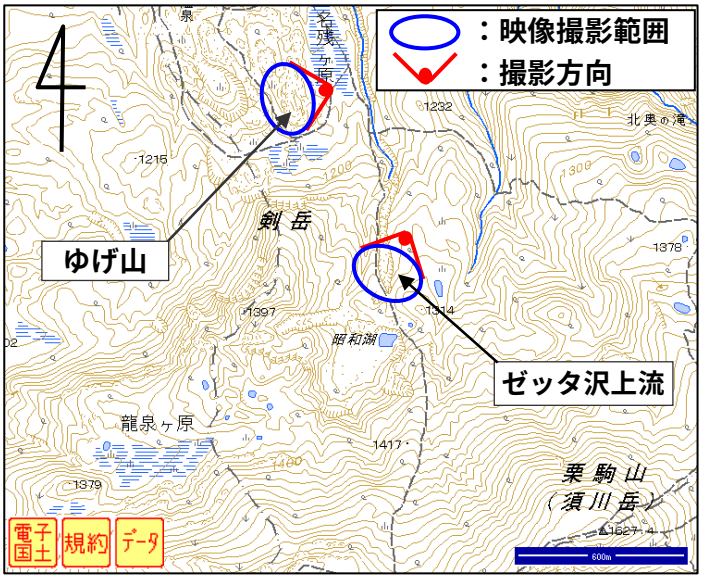

図４　栗駒山　赤外熱映像[1]、及び可視画像観測範囲

表２　ゼッタ沢上流　噴気温度[2] 観測結果

	2007年７月25日	2008年７月16日
天気･気温	薄曇・23.0℃	曇り・20.3℃
噴気温度	94℃	91℃
深さ	10cm	10cm
噴気の高さ	10m	10m

表３　ゆげ山山頂　噴気温度[2] 観測結果

	2008年７月17日
天気･気温	曇り・21.6℃
噴気温度	76℃
深さ	30cm
噴気の高さ	10m （図６撮影時は噴気確認できず）

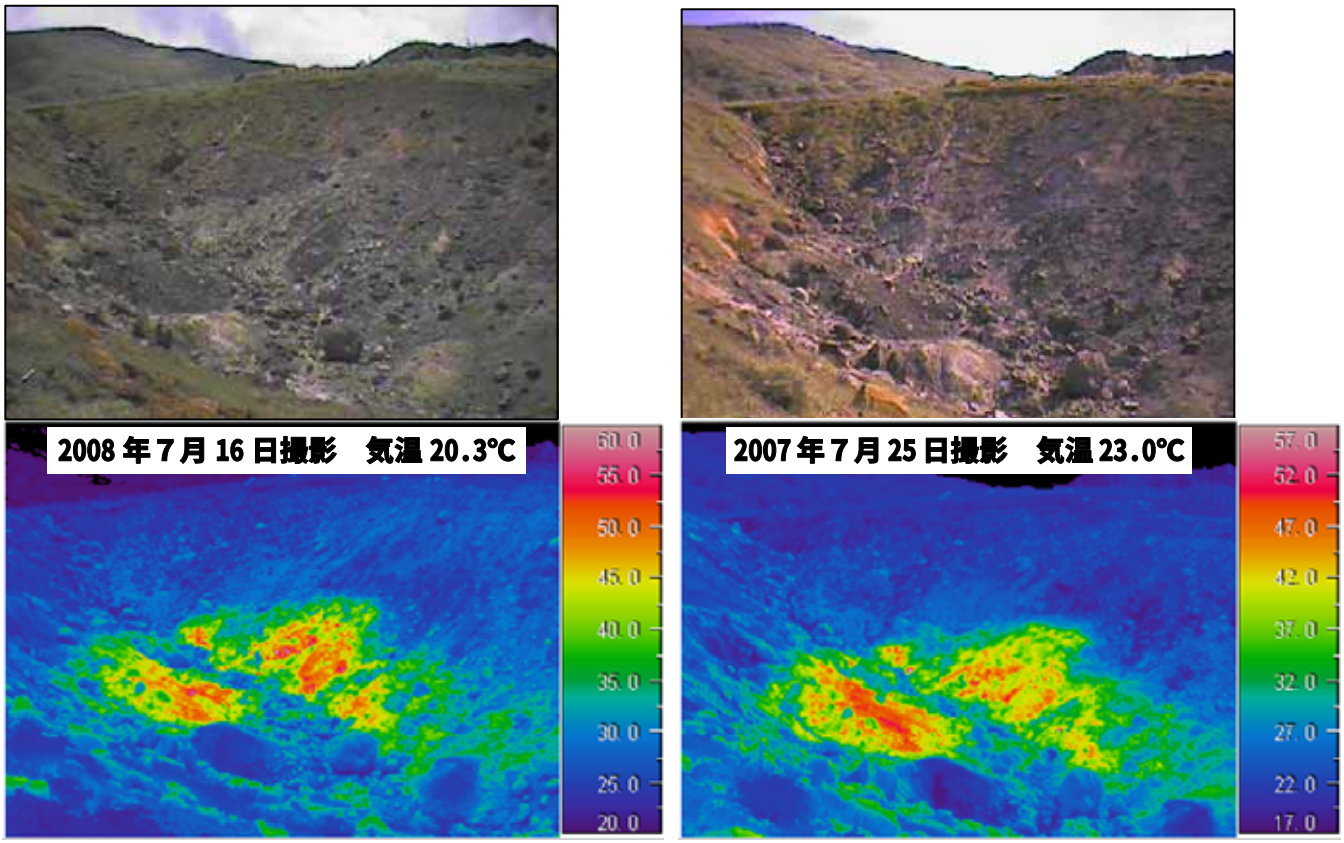

図５　ゼッタ沢上流の可視画像（上）と赤外熱映像[1] による温度分布図（下）

図６　栗駒山　ゆげ山の可視画像

赤い点線で囲んだ部分は、地震の影響で地割れが発生しており、噴気が出やすくなっている所です。